

## 第5回信州おもてなし大賞の表彰について

## 1 目的

県内の各地域において、長期的な視野をもって、おもてなしの向上に真摯に取り組む企業・団体、個人の皆さまの光輝く活動を表彰する。

## 2 選考の考え方


信州らしさや伝統を大切に、来訪者に期待以上の感動を与えるような一人ひとりの立場に立ったおもてなしであること。また、組織内でおもてなしの意識が共有され、継続して実施されることで、他の企業・団体・地域のお手本となり波及することが期待される取り組みであること。

## 3 受賞者



## 信州おもてなし大賞（知事表彰）3団体

賞	受賞者	取り組み内容
大賞	株式会社 JINRIKI (箕輪町)	<p>○ 車椅子けん引機材の開発・普及でバリアを超える観光地に</p> <p>車椅子けん引機材JINRIKIの開発・普及により、観光やレジャーなどにおける移動範囲を広げた。</p> <p>たった1センチの段差でも、小さな前輪で乗り越えるのは難しい。JINRIKI シリーズは、車椅子にけん引バーを装着し前輪を浮かせて引くことで、今まで車いすではできなかった坂道や段差、雪道等の移動が、実に簡単に行うことができます。取り付けも容易で、様々なタイプの車いすに装着できるようにも工夫されている。また、介助者が車椅子を前からけん引できるようになったことで移動の安全性が高まり、アウトドアを含めた観光のみならず、災害緊急時の緊急移動にも活用できる。</p> <p>「いつでも、だれでも、どこでも、安心して信州」を可能にする「信州のおもてなし」を目指している。</p>
大賞	富士見高原 リゾート株式会社 (富士見町)	<p>○ 誰もが楽しめるユニバーサルフィールドづくり</p> <p>花の香りや鳥のさえずり、風の音や星の輝きを、子供や高齢者、障がい者と介助者や家族など誰もが共に感じ楽しむことができる場所「ユニバーサルフィールド」づくりに平成22年から取り組みを進めている。</p> <p>社員一体となって取り組んでおり、HIPPOやJINRIKI、デュアルスキー、遊覧カート等道具の導入によるアウトドア体験の提供や、声掛けや人の手によるサポートで車椅子や高齢の方へ支援を通し「おもてなしの心をカタチにする」ことを実践している。</p> <p>また、諏訪地域は下より、県内の観光事業者やユニバーサルに取り組む団体と積極的に連携し、社員が学んできたことを企業内に留めず、県下各地で行われるイベント等での道具の貸出や展示、講習会を行い県内のユニバーサルツーリズム推進に尽力している。</p>
大賞	古田の里 赤そばの会 (箕輪町)	<p>○ 遊休農地の利用と景観保全、高嶺ルビーの赤いじゅうたん</p> <p>平成9年から中箕輪そば組合が耕作していた赤そばを、平成18年に「古田の里赤そばの会」が引き継ぎ栽培している。木々が生い茂る山道を抜けると目の前に4.2haのピンク色の赤そばの花が一面に広がり観光客を楽しませている。見ごろは9月下旬から10月上旬。その間に開催される「赤そば花祭り」では地元有志によるバンド演奏や地元農産物の販売、トン汁のふるまいなど地元ならではのアットホームで温かみのあるおもてなしを実践している。2度3度と訪れるリピーターも多く「日本で一生に一度は行きたい風景」と取り上げられたこともある。</p> <p>また、赤そばの会のホームページでは日本語だけでなく英語版の掲載、季節が近づくとライブカメラの映像公開など積極的に情報発信が行われている。</p>

特別奨励賞（知事表彰）1 団体

<p>特別 奨励賞</p>	<p>天龍村立 天龍中学校 (天龍村)</p>	<p><b>○ 天龍村を盛り上げる、全校生徒が取り組む「梅花 PROJECT」</b>                  天龍村が毎年2月に開催する「天龍梅花駅伝」は同村の一大イベントであるが、天龍中学校の生徒によるおもてなしが名物である。中学生が県内外から来るお客様を天龍村らしくおもてなしたいという思いから、平成22年より「梅花プロジェクト」が開始された。プロジェクトでは村の特産品であるお茶と竜峡小梅を収穫し、お茶や梅ジャムクッキーなどの製品を作るが、年度当初に年間目標、収穫目標、製品個数などを生徒全員で話し合い、1年がかりで活動に取り組む。今年は、14名の生徒が一人一人何役もこなし、駅伝当日には、おもてなしの心で駅伝参加者や応援者に販売・配布を行い元気な声で駅伝を盛り上げている。</p>
		

奨励賞（信州キャンペーン実行委員会会長表彰）2 団体

<p>奨励賞</p>	<p>一般社団法人 木曽人 (上松町)</p>	<p><b>○ 木曽地域をつなぐ情報誌「木曽人」の発刊、「ねざめ亭」の運営</b>                  木曽地域をつなぐ、木曽地域の人々の魅力などを紹介するフリーペーパー「木曽人」を平成28年3月から2カ月に1回発行し、木曽地域15000戸に全戸配布するとともに、道の駅や観光案内所へも配置している。                  木曽は、外の地域から見るとひとつと捉えられるが、元々は11の宿場があり木曽に住む人たちは自分の住んでいる地域以外の事は知らないことが多い。観光客が妻籠宿を訪れ奈良井宿の情報を尋ねた際に、人と人とのつながりを大切にし、情報発信ができる体制づくりに努めている。                  また、休止していた「レストハウス木曽路」を「ねざめ亭」としてオープンさせ、絶景パウダールーム「OTOHIME」は寝覚の床を一望できる立地を生かしたアイデアで観光客をもてなしている。</p>
		
<p>奨励賞</p>	<p>特定非営利活動法人 ヒューマンネット ながの (長野市)</p>	<p><b>○ ユニバーサルトイレマップ・アプリの作成</b>                  平成25年に「だれもが安心して観光を楽しんでもらうためのマップアプリを作る」ことを目的に、障がい者やその家族、関係者、長野高専や企業など他分野の方が20名集まりプロジェクトチームを発足し、平成27年の善光寺御開帳に向け、長野市街地の多目的トイレをはじめ、観光施設などのユニバーサルな情報を調査し、その結果を発信するアプリを制作した。その後、公共施設の情報の追加など、アプリの充実にも努めてきた。また、アプリだけに留まらず、紙媒体でもユニバーサルトイレマップを制作し、市街地のトイレに掲示するなどの活動も行っている。さらに、長野駅東口エリアや松代地区のユニバーサルマップの制作も勢力的に行い、地域も拡大している。今後は、長野市だけでなく近隣の観光地のバリアフリーマップの制作を広めていきたいと考えている。</p>
		

4 選考経過

- (1) 募集期間 平成29年8月21日(月)～平成29年10月31日(火)
- (2) 応募件数 計22件
- (3) 事務局にて第1次選考の後、ヒアリングを実施
- (4) 第5回信州おもてなし大賞第2次選考委員会  
 開催日：平成30年2月9日(金)  
 審査員  
 大正大学地域構想研究所教授 清水 慎一  
 人とホスピタリティ研究所代表 高野 登  
 九州国際大学国際関係学部教授 福島 規子  
 ジャーナリスト・中小企業診断士 瀬戸川礼子  
 コミュニケーション・シーズ 杉本 文江  
 長野県観光部長 熊谷 晃